

脳の能力は掛け算で成長

17日間にわたる冬休みが終了し、学校が再開しました。後期後半の始まりです。令和5年度の総まとめを行う後期後半3ヶ月の始まりにあたり、脳の能力は掛け算で成長するというお話をします。

東京大学の教授で脳研究の研究を進めている池谷裕二さんのお名前を、皆さんは見たことがあると思います。1年生の国語教科書の教材「笑顔という魔法」を書いた方（執筆者）だからです。先ほどの「脳の能力は掛け算で成長する」というのは池谷さんが研究を進め導き出した一つの研究成果でもあります。ここから具体的なお話を続けます。

例えば、現在の実力が1だとし、目標を100に設定したとします。勉学に励めば1が2倍になり2になります。さらに努力すれば、いずれ2の2倍、つまり4へと成長します。さらに努力を継続すれば、8、16と伸びていきます。1から見れば、16はすごい数字なのですが、目標値の100と比べると…これほど努力しても、まだまだ16なのです。目標値100ははるか先に見えるのかもしれませんが。多くの人は、この時点で「自分はどんなにがんばってもダメだ。才能がないんだ。」とあきらめてしまいます。

改めて言うまでもなく、「脳の能力は掛け算で成長する」のですから、その後は目覚ましい成長を遂げることになるのです。16の2倍は32、そして64、128となり、気が付けば目標値をクリアしていました。努力を始めてから成果が目に見えるまでに一定の時間がかかるのは、脳のこうした仕組みがあるからです。さらに、このまま努力を継続すれば、256、512です。ここまでくると、もはや1や2のレベルで苦闘している初心者からは想像のできないほどのレベルに到達をしたことになります。

将棋の藤井聡太八冠は、もしかしたら「このレベル」なのかもしれません。史上初めて全8タイトルを独占した若き第一人者です。「アマチュアがプロに勝てない種目の代表は将棋と相撲だ」というのをどこかで聞いたことがあります。「脳の能力は掛け算で成長する」ということで考えれば、プロの最高峰になればなるほど、その差は大きくなるはずです。将棋の藤井聡太八冠はそれでもまだ努力を続けるようです。新春の新聞記事で、藤井八冠は「将棋のことをどれぐらい理解しているかと言われれば、自分の感覚では1割にも満たない」と謙虚に自身の現在地を語っています。その上で、今後のタイトル防衛戦については、「これからはさまざまな形への対応力が必要になる。指したことがない手を試してみたい。」と尽きることのない探究心を示しています。藤井聡太八冠がどれだけの高みに到達するのか、楽しみで仕方ありません。

今日から始まる後期後半、「脳の能力は掛け算で成長する」を念頭に置き、努力を継続してみましょう。努力の成果が目に見えるようになるかもしれません。